

Product line: Control set for #27101 - #27997 ELISA Kits

27101-QC Rat VEGF Control Set
27121-QC Human Fibulin-5/DANCE Control Set
27131-QC Human G-CSF Control Set
27138-QC Mouse GRO β /MIP-2 Control Set
27141-QC Human SCF Control Set
27142-QC Human GRO β Control Set
27162-QC Rat GRO/CINC-1 Control Set
27182-QC Human EL Full-Length Control Set
27188-QC Human Syndecan-4 Control Set
27193-QC Rat IL-1 β Control Set
27194-QC Rat TNF- α Control Set
27601-QC Mouse soluble α -Klotho Control Set
27701-QC Mouse GIP, Total(h.s.) Control Set
27702-QC Mouse GIP, Active form(h.s.) Control Set
27703-QC Rat GIP, Total(h.s.) Control Set
27704-QC Rat GIP, Active form(h.s.) Control Set
27705-QC Mouse/Rat Total Insulin Control Set
27709-QC Human Amyloid β Toxic Oligomer Control Set
27711-QC Human Amyloid β (1-42) Control Set
27716-QC Human Amyloid β (N3pE-42) Control Set
27717-QC Human Amyloid β (1-38) Control Set
27718-QC Human Amyloid β (1-40) (FL) Control Set
27721-QC Mouse/Rat Amyloid β (1-42) Control Set
27732-QC Human sAPP β -w(h.s.) Control Set
27733-QC Human sAPP β -sw(h.s.) Control Set
27734-QC Human sAPP α (h.s.) Control Set
27752-QC BACE1 Control Set
27762-QC α 2, 6-Sialyltransferase Control Set
27765-QC Rat N-ERC/Mesothelin Control Set
27768-QC Mouse IL-6 Control Set
27770-QC Rat LRG Control Set
27776-QC Human APP β CTF Control Set
27785-QC Mouse LRG Control Set
27996-QC Human FGF19 Control Set
27997-QC Human FGF21 Control Set

新ロットより、アジ化ナトリウム不含になる場合もございます。

1. 化学物質及び会社情報

製品 : 表紙に記載
 化学物質を含む製品詳細 : 一部 ELISA 製品コントロールセット (凍結乾燥品)

会社情報

株式会社 免疫生物研究所
 〒375-0005 群馬県藤岡市中 1091-1
 TEL: 0274-22-2889 FAX: 0274-23-6055
 URL: <http://www.ibl-japan.co.jp> E-Mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp

危険有害性を有する化学物質 (防腐剤として以下の濃度を含む)

化学物質	CAS 番号	含有量 (w/w)%
アジ化ナトリウム	26628-22-8	約 5 % (所定量に再構成後 0.05 %)

以下、アジ化ナトリウムとしての情報

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

自己反応性化学品 タイプ G

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分 2

急性毒性(経皮) 区分 1

皮膚腐食性・刺激性 区分 1

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分 1

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分 1 (心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 区分 1 (中枢神経系、心血管系、肺)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 区分 1

水生環境慢性有害性 区分 1

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「分類できない」または「区分外」です。



注意喚起語 危険

危険有害性情報

飲み込むと生命に危険

皮膚に接触すると生命に危険

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害

長期にわたる、または、反復ばく露により中枢神経系、心血管系、肺の障害

水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

眼、皮膚、または衣類に付けないこと。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼でやさしく洗うこと。
 皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。
 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚または髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は、直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露した場合、医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 漏出物を回収すること。

【保管】
 施錠して保管すること。

【廃棄】
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質	化学名又は一般名	アジ化ナトリウム
	別名	ナトリウムアジド
	分子式 (分子量)	N ₃ Na (65.02)
	化学特性 (示性式又は構造式)	$\text{N}=\text{N}^+=\text{N}^- \text{--- Na}^+$
	CAS 番号	26628-22-8
	官報公示整理番号(化審法・安衛法)	(1)-482
	分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼でやさしく洗うこと。
 直ちに医師に連絡すること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

眼に入った場合

直ちに医師に連絡すること。
 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。
 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

予想される急性症状及び遅発性症状

吸入: 咳、頭痛、息切れ、鼻づまり、眼のかすみ、心拍数低下、血圧降下、意識喪失。
 皮膚: 発赤、水疱。
 眼: 発赤、痛み。
 経口摂取: 咳、頭痛、息切れ、鼻づまり、眼のかすみ、心拍数低下、血圧降下、意識喪失、腹痛、吐き気、発汗。

最も重要な兆候及び症状

許容濃度をわずかに超えても、神経系に影響を与えることがある。

応急措置をする者の保護 データなし
医師に対する特別注意事項 データなし

5. 火災時の措置

消火剤 水噴霧、泡消火剤、乾燥砂類
使ってはならない消火剤 棒状放水、炭酸ガス、粉末消火剤、ハロゲン化物

特有の危険有害性

摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
 粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。
 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
 熱により自己分解や自然発火を引き起こすおそれがある。
 蒸気又は粉じんが空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。

特有の消火方法

周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
 容器が熱に晒されているときは、移動させない。
 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
 区域より退避させ、爆発の危険性により遠くから消火する。

消火を行う者の保護 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

全ての着火源を取り除く。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 関係者以外の立入りを禁止する。
 密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

取扱い後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 眼、皮膚、または衣類に付けないこと。
 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 飲み込まないこと。

保管

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

技術的対策

消防法の規制に従う。

混触危険物質

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管条件

容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

容器包装材料

データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会

未設定 (2009 年版)

ACGIH

STEL (C) 0.29ppm (アジ化ナトリウムとして) STEL (C) 0.11ppm (アジ化水素酸蒸気として) (2009 年版)

設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。	
保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。	

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态など

形状	固体
色	無色
臭い	無臭
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
自然発火温度	データなし
燃焼性(固体、ガス)	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	1Pa (20 °C) : HSDB (2009)
蒸気密度	2.26 (空気=1) : 危険物 DB (2nd, 1993)
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
比重(密度)	1.846 (20 °C) : ホンメル (1996)
溶解度	水 : 41.7g/100ml (17 °C) : ICSC(J) (1997) アルコール ; 僅溶、エーテル ; 不溶、 液体アンモニア ; 可溶 : Merck (14th, 2006)
オクタノール・水分配係数	log Kow ≤ 0.3 (既存化学物質安全性点検データ)
分解温度	275 °C (分解開始) : ICSC(J) (1997)
粘度	データなし
粉じん爆発下限濃度	データなし
最小発火エネルギー	データなし
体積抵抗率(導電率)	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	適切な保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	

融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがあり、火災や爆発の危険をもたらす。銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素と反応し、特に衝撃に敏感な化合物を生成する。酸と反応し、有毒で爆発性のアジ化水素を生成する。

避けるべき条件	融点以上に、特に急速に加熱
混触危険物質	銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素、酸
危険有害な分解生成物	衝撃に敏感な化合物、アジ化水素

11. 有害性情報

急性毒性	経口	区分2
	経皮	区分1
	吸入	
	吸入(ガス):	GHS 定義における固体である。
	吸入(蒸気):	データなし
	吸入(粉じん):	データ不足で分類できない。
皮膚腐食性・刺激性		区分1
眼に対する重篤な損傷・刺激性		区分1
呼吸器感作性又は皮膚感作性		
	呼吸器感作性:	データなし

	皮膚感受性:	データなし
	生殖細胞変異原性	
		分類できない。強い変異原性は微生物に特有のもののみなされている。
	発がん性	区分外。発がん性の証拠は見出されていない。
	生殖毒性	分類できない。
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	
		経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した5人の実験技術者の例(NTP TR.389 (1991))、10~20 g を摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例(NTP TR.389 (1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例(HSDB (2009))などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている(DFGOT vol.20)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	
		ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量(20 mg/kg/day)で臨床症状として睡眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された(NTP TR389 (1991))。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量(10 mg/kg/day)で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている(NTP TR389 (1991))ことから、区分1(中枢神経系、心血管系)とした。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20 mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分2(肺)とした。なお、イヌの反復経口ばく露試験(1~10 mg/kg/day)でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている(HSDB (2009))が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。
	吸引性呼吸器有害性	データなし
12. 環境影響情報		
	水生環境急性有害性	区分1
	水生環境慢性有害性	区分1
13. 廃棄上の注意		
	残余廃棄物	
		廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
		廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
	汚染容器及び包装	
		容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
		空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意		
	国際規制	
	海上規制情報	IMOの規定に従う。
	UN No.	1687
	Proper Shipping Name.	SODIUM AZIDE
	Class	6.1
	Packing Group	II
	Marine Pollutant	Not Applicable
	航空規制情報	ICAO・IATAの規定に従う。
	UN No.	1687
	Proper Shipping Name.	Sodium azide
	Class	6.1
	Packing Group	II
	国内規制	
	陸上規制情報	消防法、毒物及び劇物取締法の規制に従う
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号	1687
	品名	アジ化ナトリウム
	クラス	6.1
	容器等級	II
	海洋汚染物質	非該当
	航空規制情報	航空法の規定に従う。

国連番号	1687
品名	アジ化ナトリウム
クラス	6.1
等級	2

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号 153

15. 適用法令

化審法 第3種監視化学物質(法第2条第6項)(政令番号:3監-158)

労働安全衛生法

危険物・爆発性の物(施行令別表第1第1号)
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号:9-9)

毒物及び劇物取締法

毒物(指令第1条)。アジ化ナトリウム及びこれを含有する製剤。ただし、アジ化ナトリウム 0.1 %以下を含有するものを除く。(政令番号:1)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)(政令番号:1-11)

消防法

第5類自己反応性物質、金属のアジ化物(法第2条第7項危険物別表第1・第5類10・危険物政令第1条第3項)

船舶安全法

毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

特になし

ここに記載された情報は作成時の知見によるものですが、必ずしも完全ではありません。取り扱いには十分注意してください。

2016年12月5日作成